



八卦台

No. 8

平成29年12月1日
男鹿市立瀧西中学校

生き延びるために自ら行動を 渦中と地域の合同防災訓練を通して学んだこと

校長 森山 直人

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から6年半が経ちました。まだまだ困難な状況の中、復興への長い道のりを必死に頑張っている人がたくさんいます。また、男鹿でもたくさんの被害者が出た日本海中部地震から34年です。この地震では、日本海側に津波は来ないという俗説が信じ込まれていたことが、人的被害を大きくしました。地震等の災害発生時に、瞬時に判断して生き延びるためには、常にいざというときの心構えをもつこと、そして、命を守るために確実に行動できることが必要です。

本校では、10月31日（火）に、近隣の福米沢地区、土花地区との合同防災訓練を初めて実施しました。これは、生徒の「いのち」と地域の方々の「いのち」を守るためには、学校の立地条件や特徴を踏まえて、日頃から学校と地域とが「顔が見える関係」をつくり上げておくことが重要であり、そうした関係づくりには、学校と地域が、連携・協働して防災訓練を実施することが有効だと考えたからです。

生徒の振り返りから

- 地域の人たちと初めての防災訓練だったが、話し掛けてくれたり笑わせてくれたりして緊張がほぐれた。アルファ米を配った時におばあさんが「働き者でいい子だね」と声を掛けてくれた。人同士の声の掛け合い、話合いが人の心の壁をなくし、助け合えるのではないかと思った。（1年男子）
- 本当に震災が起きたら、逃げるのは私たちだけでなく地域の人と一緒にのだから助け合いたい。倒れている人がいたら怖がらず逃げないで、声を掛けたい。（2年女子）
- 今回来ていない地域の人も入れると、もっと避難は難しくなる。自分たちが進んで行動しないといけない。地域の人と関わることは大事なことだ。関わりを深めていけば、今後いろいろところで信頼されるし、交流もたくさんできる。（3年男子）
- 3年生は、後輩たちよりも積極的に動かなければならない立場なので、冷静さと地域の方を迎える意識が必要だ。（3年女子）

避難所・瀧西中としてできることを今後も一層検討し、継続した取組としていきたいと思えます。福米沢地区、土花地区の皆様、寒い中ご参加いただき、ありがとうございました。

瀧西中ホームページのご案内

瀧西中のフレッシュな情報をお届けしています。HP内の学校ブログ「瀧中DAYS」は日々更新中です。学校報で紹介しきれない情報も発信しています。携帯・スマホでご覧になる場合は、右のQRコードをご利用ください。



合同防災訓練ドキュメント

当日の様子をダイジェストで紹介します。



～13:20 避難訓練



渦中生は1分55秒で避難を完了しました。近隣町内では、それぞれに1次避難をした後、渦中のグラウンドを目指して避難しました。市から各町内に配付されたリヤカーに、実際に負傷者役の方を乗せて引っ張って来てくださった方もいらっしゃいました。また、災害時さながらポンプ車の出勤もありました。

13:30～ 開会行事（東日本大震災DVD視聴など）

13:50～ アルファ米の試食



男鹿市役所総務課危機管理室の方から、防災についてのお話と非常食（アルファ米）の説明があり、その後、試食をしました。地域の方からは「いつも食べているお米と変わらないね」「町内にも備蓄しておくといいな」という声が上がりました。

14:05～ 救急救命講習



男鹿地区消防署若美分署の方々から心肺蘇生法を教わりました。渦中生が学年混合の七つの班に分かれ、地域の皆さんと一緒に挑戦しました。お互いの操作に会場のあちらこちらから自然に拍手が沸き起こり、温かな雰囲気の中で全員が体験できました。

15:15～ 閉会行事

町内会長の中田様（福米沢）と大越様（土花）から、「災害はいつ起こるか分かりません。いつか、中学生の力を借りるときが来るかもしれません。今後も一緒に防災訓練をしていきましょう。是非、家に帰って今日の訓練について話をして、みんなで防災の意識を高めていきましょう。」というお話をいただきました。

